

『三譯總解(第一)』ハングル表記満洲語文語索引*

王 海波
(嶺南師範学院)

キーワード:『三譯總解』、ハングル表記、満洲語文語

1. はじめに

朝鮮時代の司譯院は、外交通訳を担うと同時に、外国語教育機関としても機能していた。ここには漢学・倭学・蒙学・女真学の四学が置かれ、満洲人の入閑後には女真学が清学へと改められた。現存する清学書としては、読本類の『八歳兒』・『小兒論』・『三譯總解』・『清語老乞大』と、辞書類の『同文類解』・『漢清文鑑』が挙げられる(小倉 1914a: 44-45; 1914b: 257-262; Lie 1972: 19-21; 邵磊 2011: 290)。

清学書におけるハングル表記の満洲語文語は、必ずしも満洲文字で書かれた満洲語文語を一対一で転写したものではない。例えば、満洲語文語の CVwV (C=子音、V=単母音または二重母音) に相当する語形が、ハングル表記では 1 音節で書かれる場合もあれば、2 音節で書かれる場合もある。また、満洲語文語の e に対応するハングル表記や io に対応するハングル表記などにも、それぞれ複数の対応形式が見られる。ハングル表記の満洲語文語は、満洲文字では表しきれない発音上の細部を、ある程度反映している可能性がある。清学書における満洲語文語の満洲文字表記とハングル表記の対応関係に関する研究としては、池上(1951; 1954; 1963)、今西(1958)、성백인(1984)、岸田(1989)、Ikegami(1990)、崔宰宇(1997)、菅野(2005)、邵磊(2011; 2016)、和田(2013)、王敵非(2013)、邵磊・多麗梅(2022; 2023)、邵磊・金龍軍(2022)、邵磊・林茶英(2022)、邵磊・王敵非(2022)、邵磊・任國俊(2023)などが挙げられる。

満洲文字とハングルの表記対応の問題を検討するには、ハングルで記された満洲語文語の語を、対応するメレンドルフ式転写にもとづいて配列し、整理する作業が有効であると考えられる。そこで本稿では、清学書『三譯總解』(全十巻)の第一巻(『三譯總解(第一) : 凤儀亭呂布戲貂蟬』)にあるハングル表記の満洲語文語の語について、メレンドルフ式転写にもとづき索引を作成する。

2. ハングル表記満洲語文語の索引

次表は、清学書『三譯總解(第一)』におけるハングル表記の満洲語文語の語形を、メレンドルフ式転写のアルファベット順に配列したものである。

[1] 第 1 列には、満洲文字で書かれた語のローマ字転写(メレンドルフ式転写)と、その語の和訳を示している。和訳については、羽田(1937)、田村ほか(1966-1968)、福田(2008)等を参考にした。なお、和訳は『三譯總解』中の文脈に限定した意味ではなく、一般的な語義に基づくものとする。

[2] 第 1 列の動詞については、原則として未完了形とその和訳を記載している。ただし、『三譯總解』における記録が未完了形以外の形式である場合には、第 1 列に未完了形と和訳を示すとともに、その下の行には、対応する語形を併記している。

* 本稿は、中国国家社会科学基金後期資助項目「満語支語言音系学研究」(課題番号 22FMZB009) の助成を受けた研究成果の一部である。

- [3] 第2列には、『三譯総解』に見られるハングル表記の満洲語文語の語形を示している。
- [4] 第3列は、当該語形が『三譯総解』原書のどこに出現しているかを示したものである。たとえば「(1-2a-3-4)」は「第1巻-第2葉a面-第3行-第4語」を表す。「第X語」とは、ハングル表記の満洲語文語のみを対象に順に計数した場合のX番目に現れる語を指す(ハングル表記の満洲語文語以外の語は計数から除外する)。

表1:『三譯総解(第一)』ハングル表記満洲語文語索引

メレンドルフ式転写と和訳	ハングル表記	出現箇所
abka 「空」	압카	(1-18b-1-2)
abkai 「空(そら)の」	압캐	(1-11a-3-5)
absi 「どう ; なんと ; どこに」	압시	(1-20b-1-1)
acabumbi 「会わせる ; 合わせる」	---	---
acabuha	아챠부하	(1-3b-3-4)
acambi 「会う ; 合う」	아참비	(1-18a-3-2)
acaha	아챠하	(1-16a-3-7)
acarakū	아챠라쿠	(1-8a-5-3)
acanjimbi 「会いに来る」	---	---
acanjifi	아챤지피	(1-10b-4-7)
adali 「同様」	아다리	(1-15a-5-3) (1-15b-2-4) (1-18b-6-2)
adarame 「如何に」	아다라며	(1-8a-1-3) (1-11b-2-2)
aga 「雨」	아가	(1-19a-4-2)
agambi 「雨が降る」	---	---
agara	아가라	(1-19a-4-3)
ai 「何 ; 何の」	애	(1-1b-3-2) (1-3b-1-1) (1-4a-2-6) (1-10a-2-4) (1-10b-5-3) (1-12b-3-2)
aibide 「どこに」	애비더	(1-5a-4-3)
aifini 「とっくに」	애피니	(1-16b-6-4)
aika 「もし ; もしかしたら」	애카	(1-6b-3-4)
aikabade 「もし」	애카바더	(1-3a-4-2) (1-11a-6-1)
ainambahambi 「どうして～で きるのか」	---	---
ainambahafi	애남바하피	(1-2a-5-3)
ainu 「なぜ」	애누	(1-11a-4-3)
aise 「きっと～だろう」	애스	(1-7b-6-2)
aisin 「金」	애신	(1-11b-3-5) (1-12a-6-1)
ajige 「小さい」	아지거	(1-2b-4-4) (1-4a-6-5) (1-8b-3-5) (1-11a-4-5)
akjambi 「雷が鳴る」	---	---
akjandara	악잔다라	(1-18b-6-1)
akjan 「雷」	악잔	(1-18b-5-8) ¹

¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「악잔」が「약잔」のように見えるが、本来は「악잔」と書かれていたものと考えられる。

akū 「無い」	아쿠	(1-3b-1-3) (1-4a-2-8) (1-5a-2-3) (1-6a-6-1) (1-6b-4-3) (1-7a-4-4) (1-7a-5-8) (1-7b-2-1) (1-8a-2-5) (1-10a-2-6) (1-12b-3-4) (1-15b-5-3) (1-18b-1-7) (1-19b-1-6) ²
alambi 「知らせる」	---	---
alame	아라머	(1-19b-6-1)
alanambi 「知らせに行く」	---	---
alanaha	아라나하	(1-10b-3-7)
alanjimbi 「知らせに来る」	---	---
alanjime	아란지며	(1-1b-5-4)
alimbi 「受ける；引き受ける」	---	---
aliki	아리키	(1-4a-5-5)
aliyambi 「待つ；後悔する」	---	---
aliya	아랴	(1-14b-6-3)
aliyaha	아랴하	(1-2b-5-1) (1-15a-3-1)
aljambi 「離れる；顔色を変える」 (angga aljambi 「約束する」)	---	---
aljahabi	알자하비 ³	(1-3a-3-6)
amaga 「後來の、将来の」	아마가	(1-17a-5-2)
amala 「後ろ(に)；後に；これから」	아마라	(1-9a-3-4) (1-9b-6-3)
amargi 「北；後ろ」	아말기	(1-1b-1-6) (1-14b-2-4) (1-14b-5-2) (1-19b-6-4) (1-20a-2-3) (1-20b-1-6)
amasi 「後ろに」	아마시	(1-6b-6-7) (1-9b-5-2) (1-19b-1-1) (1-19b-3-1) (1-21a-1-2)
amba 「大きい」	암바	(1-11a-6-8) (1-12b-2-1)
ambula 「多い；大いに」	암부라	(1-8b-6-2) (1-10a-1-1) (1-10b-2-1) (1-21a-1-7)
ambumbi 「追いついて捕える」	---	---
amburakū	암부라쿠	(1-21b-1-1)
amcambi 「追う」	---	---
amcaci	암챠치	(1-21a-6-4)
amcame	암챠며	(1-21b-1-5) (1-21b-6-5)
amcara	암챠라	(1-21a-5-2)
amha 「妻の父；夫の父」 ⁴	암하	(1-3b-2-5)

² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「아쿠」が「아구」のように見えるが、本来は「아쿠」と書かれていたものと考えられる。

³ 原書の当該箇所では、「알자하비」ではなく「알자하비」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

⁴ 『清文鑑』では「妻の父」と「夫の父」のいずれも amha とされている。『増訂清文鑑』では「妻の父」と「夫の父」がそれぞれ amha と amaka に区別されている。『三譯総解』原書におけるこの amha は、「夫の父」を意味するものと解される。

amhambi 「寝る」	---	---
amhaha ⁵	암하하	(1-9a-1-5)
amu 「眠り」	아무	(1-9b-4-2)
angga 「口」	양가	(1-3a-3-5)
aniya 「年」	아냐	(1-17b-4-6)
arambi 「作る；書く；～のふりをする」	---	---
arafi	아라피	(1-4b-3-5) (1-12b-1-4)
arame	아라며	(1-6a-3-2) (1-7a-2-3)
arara	아라라	(1-16a-1-2)
arbušambi 「振舞う」	---	---
arbušara	알부샤라	(1-9b-4-7)
arga 「方法；策略」	알가	(1-18b-3-1)
ashambi 「帶びる」	---	---
ashahai	앗하해	(1-13a-5-8)
ashan 「傍ら」	앗한	(1-6b-4-6)
ashūmbi 「拒む；撃退する；追い出す；捨てる；弓をひくとき右手を後ろにひいて放す」	---	---
ashūra ⁶	앗후라	(1-21b-2-5)
ba 「所；里(距離単位)」	바	(1-1a-3-1)
bahambi 「得る」	---	---
baha (完了)	바하	(1-13a-1-1)
bahafi	바하피	(1-8a-5-2) (1-8b-4-1) (1-16a-3-6) (1-17a-1-3)
baharakū	바하라쿠	(1-16a-2-4)
baimbi 「探す；求める」	---	---
baici	배치	(1-20a-3-2)
baime	배며	(1-14b-2-3)
baire	배러	(1-14b-3-5)
baita 「事」	배타	(1-6b-3-5) (1-7b-1-3) (1-8b-1-4)
baniha 「感謝」	바니하	(1-4b-3-4) (1-12b-1-3)
banjimbi 「暮らす；生む；生まれる」	반짐비	(1-17b-4-9)
banjifi	반지피	(1-10a-1-3) (1-10b-1-4)
banjiha	반지하	(1-15b-1-4)
banjiki	반지키	(1-18b-3-7)

⁵ 当該動詞の語幹は、『増訂清文鑑』では amga- と綴られている。見出し語 amgambi 「睡」を参照されたい。一方、『大清全書』には amga- と amha- の両綴りが収録されている。見出し語 hiri amgaha 「鼾睡。睡熟了。」および amhambi -ha 「睡。」を参照されたい。

⁶ 母音調和に従えば、ashūra ではなく、ashūre のはずである。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも ashūra に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 160）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ ashūra と ashūre である。

baru 「～に向かって」	바루	(1-2b-1-4) (1-7a-2-1) (1-7a-6-3) (1-10a-3-3) (1-14a-3-5) (1-15a-6-4)
be 「を」	벼	(1-1a-4-5) (1-1a-5-6) (1-1b-1-5) (1-1b-3-7) (1-1b-6-2) (1-2a-5-2) (1-3b-2-3) (1-3b-4-8) (1-4a-5-2) (1-4b-5-1) (1-6b-2-4) (1-7a-1-4) ⁷ (1-7a-3-4) (1-7a-6-5) (1-7b-4-7) (1-8a-3-5) (1-8a-6-3) (1-9a-5-5) (1-9a-6-5) (1-9b-4-8) (1-10a-1-6) (1-10a-4-5) (1-10a-5-3) (1-10a-6-4) (1-10b-3-3) (1-10b-6-3) (1-11a-1-5) (1-11a-3-7) (1-11b-3-3) (1-11b-6-5) (1-12a-2-5) (1-12b-2-5) (1-12b-6-8) (1-13b-3-7) (1-14a-1-1) (1-14a-5-2) (1-14a-6-4) (1-14b-2-2) (1-14b-3-6) (1-15b-5-5) (1-15b-6-4) (1-16a-1-3) (1-16a-3-5) (1-16a-4-3) (1-16a-5-5) (1-16b-3-2) (1-16b-6-3) (1-17a-3-3) (1-17a-6-5) (1-17b-4-4) (1-17b-5-4) (1-18a-4-4) (1-18b-1-4) (1-18b-5-7) (1-19a-3-3) (1-20a-1-5) (1-20b-1-3) (1-21a-1-5) (1-21a-3-5) (1-21b-1-4) (1-21b-2-4) (1-21b-4-4) (1-22a-1-4)
	ㅂ]	(1-9a-4-6)
bederebumbi 「返す」	---	---
bederebufi	벼드려부피	(1-20a-2-1)
bederembi「戻る、退く、帰る」	---	---
bedere	벼드려	(1-7b-2-4)
bederefí	벼드려피	(1-19b-3-3)
bederehe	벼드려허	(1-7b-3-4) (1-10b-2-4)
bederere	벼드려리	(1-13b-4-4)
benembi 「送る」	---	---
benehe	벼너허	(1-2a-1-1)
beneki	벼너키	(1-4b-3-1)
besergen 「寝台」	벼슬건	(1-9a-1-3) (1-9a-2-2) (1-9a-3-2)
beye 「体；自分」	벼여	(1-3a-6-6) (1-4a-2-1) (1-5b-6-1) (1-7a-3-6) (1-7a-4-2) (1-9a-5-4) (1-15b-6-3) (1-16a-5-1)
bi 「私」	벼	(1-2b-4-1) (1-3a-1-1) (1-3a-6-3) (1-3b-4-6) (1-4a-2-5) (1-4a-4-6) (1-12a-1-2) (1-12b-3-1) (1-14b-6-4) (1-15a-6-6) (1-16b-5-6) (1-17a-4-1) (1-17b-1-4) (1-17b-4-1) (1-17b-6-5) (1-18b-1-1) (1-18b-2-5) (1-18b-4-3)
bi 「ある；いる」	벼	(1-2b-2-2) (1-3a-2-1) (1-5a-4-4)
bici	벼치	(1-15a-3-2)

⁷ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁸ 原書の当該箇所では、「벼」ではなく「ㅂ」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

bicibe	비치벼	(1-15b-1-8)
bihe	비허	(1-2b-5-2) (1-4b-1-7) (1-15b-4-8) (1-16a-2-5) (1-19a-2-2) (1-20a-6-3)
bime	비며	(1-5b-6-3)
bio	보	(1-6b-3-6)
bisire	비시리	(1-19a-5-4)
biya 「月」	뱌	(1-8b-1-2) (1-15a-4-2)
boco 「色；顔色；女色」	보초	(1-8a-6-5)
boode 「家/部屋に；家/部屋で」	보더	(1-1a-4-2) (1-1a-6-2) (1-1b-2-1) (1-1b-6-8) (1-2b-3-3) (1-4b-2-3) (1-5a-3-2) (1-6b-1-4) (1-7b-3-3) (1-10a-5-5) (1-10b-2-3) (1-11b-6-7) (1-14a-6-1) (1-14b-2-5) (1-19b-3-2) (1-19b-6-5) (1-20a-2-4)
booi 「家/部屋の」	旱	(1-5b-2-2)
bošombi 「追い出す」	---	---
bošome	보쇼며	(1-10a-6-5) (1-11a-2-2)
bu 「漢語布」 (lio bu 「呂布」)	부	(1-1a-5-2) (1-1b-1-4) (1-1b-4-3) (1-2a-4-2) (1-4a-3-3) (1-4a-4-5) (1-4b-3-3) (1-4b-6-3) (1-5b-1-2) (1-6a-1-3) (1-6a-4-2) (1-6b-2-3) (1-6b-4-2) (1-7a-3-2) (1-7a-5-3) (1-7b-2-6) (1-7b-4-3) (1-7b-6-4) (1-8a-3-2) (1-9a-1-8) (1-9a-4-5) (1-9b-1-5) (1-9b-4-5) (1-10a-1-5) (1-10a-6-3) (1-10b-1-2) (1-11b-6-4) (1-12b-1-2) (1-13a-3-2) (1-13a-6-7) (1-13b-5-3) (1-13b-6-4) (1-14a-4-2) (1-14b-3-3) (1-15a-1-3) (1-15a-6-2) (1-16b-4-7) (1-17a-3-2) (1-17b-1-2) (1-17b-6-3) (1-18b-2-2) (1-19b-1-5) (1-19b-3-6) (1-20a-3-4) (1-20b-3-1) (1-21a-1-1) (1-21a-3-2) (1-21a-4-2) (1-21a-5-5) (1-21b-2-2) (1-21b-5-3)
bucembi 「死ぬ」	---	---
bucefi	부쳐피	(1-16b-2-1)
buceki	부쳐키	(1-16a-2-1)
buceme	부쳐며	(1-16a-2-3)
buda 「飯」	부다	(1-6b-1-6)
bumbi 「与える」	붐비	(1-3a-3-3) (1-15b-4-1)
buci	부치	(1-11b-4-1) (1-16a-6-4)
buhe	부허	(1-12a-6-5)
buki	부키	(1-3b-6-1)
burakū	부라쿠	(1-3a-4-3)
burlambi 「敗走する」	---	---

burlaha ⁹	불라하	(1-21a-4-4)
buyembi 「愛する；願う」	---	---
buyere	부여려	(1-17a-6-6) (1-17b-6-1)
cencilembi 「仔細に見る」	---	---
cencileme ¹⁰	천치리며	(1-5b-6-5)

⁹ 当該動詞の語幹は、『増訂清文鑑』では burula- と綴られている。見出し語 burulambi 「敗走」を参照されたい。一方、『大清全書』では burla- と綴られている。burlambi -ha 「敗。奔逃。」などの見出し語を参照されたい。

¹⁰ 『三譯総解』の(1-5b-6-5)には、cencileme という語形が出現している。岸田 (1997: 154-263) は『三譯総解』・『満文三国志』・『満漢合璧三国志』の対校表を作成しているが、当該箇所における cencileme の語形の違いについては言及していない。

動詞 cencilembi は、『満漢同文分類全書』および『増訂清文鑑』には収録されていないが、『大清全書』には収録されている。Захаров (1875: 928) および Hauer (2007: 76) は、cencilembi と cincilambi を同一語と見なしている。『大清全書』および Захаров (1875: 932) には、cincilambi の cincilembi という変形も記録されている。また、Захаров (1875: 595) および Hauer (2007: 418) は、singsilambi を cincilambi と比較している。なお、『満漢同文分類全書』には singsilembi 「相馬」が収録されているが、singsilambi と同じ語であると考えられる。当該語は、モンゴル語の sinjixu からの借用語である可能性がある。モンゴル語の sinjixu は、『蒙漢詞典』(内蒙古大學蒙古學研究院蒙古語文研究所 1999: 903) では漢語で「①観察、観測 ②考究 ③看相、相面(迷信行為)。」と訳されている。なお、cincila-, cincile-, cencile- における n は、singsila-, singsile- における ng に対応するが、これは満洲語文語において、n の後に n/s/s が続く場合に、先行する n がよく ng として現れるためである。早田 (2008: 29) が挙げた fengse 「盆子」などの例を参照されたい。cincila-, cincile-, cencile-, singsila-, singsile- が清代の一部の辞書に出現する例を次表のとおりにまとめることができる。

表 2 : cincila-, cincile-, cencile-, singsila-, singsile- の出現例

	cincila-	cincile-	cencile-	singsila-	singsile-
『大清全書』	---	cencilembi 「審視。仔細看。細觀。」	cencilembi 「觀之。偷視。審視之。」	singsilame tuwa 「(漢訳無し)」	---
『満漢同文分類全書』	cincilame tuwambi 「審觀」	---	---	---	singsilembi 「相馬」
『増訂清文鑑』	cincilambi 「詳細看」	---	---	---	---
『三譯総解 (第一)』	---	---	cencileme	---	---

清代の『伯樂相馬圖』(be lo i morin be singsilame tuwara bithe) にも singsilame という語形が見られるが、王敵非 (2024: 30) は、ここの singsilame は誤記であり、singsileme とすべきであると述べている。また、『新満漢大詞典』(胡增益 1994: 678; 2020: 1076) には singsilembi が収録されているが、singsilambi は収録されていない。逆に、『満露辞典』(Захаров 1875: 595) および『満独辞典』(Hauer 2007: 418) には singsilambi が収録されているが、singsilembi は収録されていない。しかし実際には、清代の文献において singsila- と singsile- の両形式はいずれも存在する。まず singsila- について見ると、『大清全書』には singsilame tuwa という見出し語が収録されており、その中に singsilame の語形が見られる(ただし、漢訳は付されていない)。次に singsile- について見ると、前述のとおり、『満漢同文分類全書』には singsilembi 「相馬」が収録されている。また、『清話問答四十條』(manjurame fonjire jabure gisun dehi meyen) には、age simbe morin singsilere mangga seme... 「阿哥因爲你狼認得馬...」という用例が見られ、ここにも singsile- が出現している。以上の 2 点を総合すると、次表のとおりである。

表 3 : singsila-, singsile- の出現例

	singsila-	singsile-
『新満漢大詞典』(胡增益 1994: 678; 2020: 1076) (および王敵非 2024: 30 の主張)	—	+
『満露辞典』(Захаров 1875: 595)、 『満独辞典』(Hauer 2007: 418)	+	—
清代文献(辞書類の文献)	+ 『大清全書』	+ 『満漢同文分類全書』
清代文献(辞書類以外の文献)	+ 『伯樂相馬圖』	+ 『清話問答四十條』

cenghiyang 「漢語丞相」	청향	(1-1b-6-6) (1-5a-1-3) (1-8a-4-2) (1-14a-5-6) (1-1b-6-6)
ci 「より」	치	(1-1a-6-5) (1-12a-5-1) (1-12a-5-4) (1-13a-1-2) (1-13a-5-5) (1-13b-4-3) (1-18a-1-2) (1-22a-2-2)
cimaha 「明日」	치마하	(1-2b-2-3) (1-4a-5-3) (1-12a-4-5) (1-11b-2-6)
cira 「顔、顔色」	치라	(1-6a-3-1) (1-7b-4-6)
cohome 「特に」	초호며	(1-3a-5-3)
dagilambi 「準備する」	---	---
dagilafi	다기라피	(1-2b-4-6) (1-3b-5-4)
dahambi 「付き従う；従う；降伏する」	---	---
dahame	다하며	(1-1a-5-7) (1-14a-1-2) (1-16a-5-6)
dalbade 「傍らに/で」	달바더	(1-9a-2-4) (1-14b-1-3) (1-15a-2-6)
dalin 「岸」	다린	(1-6a-1-5)
damu 「もっぱら；ただ；しかし」	다무	(1-9b-2-4) (1-17a-1-1)
dasambi 「直す；治す；治める」	---	---
dasame	다사며	(1-6a-6-3)
de 「に；で」	더	(1-1b-6-4) (1-2b-1-2) (1-3a-3-2) (1-3b-3-2) (1-3b-5-7) (1-4b-5-7) (1-5a-1-6) (1-5a-3-6) (1-6a-1-6) (1-6b-5-1) (1-7a-4-3) (1-7b-5-5) (1-8a-4-5) (1-8a-6-6) (1-8b-4-3) (1-9a-1-4) (1-9a-1-6) (1-10b-3-6) (1-10b-4-6) (1-11a-6-7) (1-13a-1-7) (1-13a-2-4) (1-13a-2-6) (1-13a-6-4) (1-13b-3-2) (1-13b-5-1) (1-14a-1-7) (1-15a-1-5) (1-15b-3-2) (1-15b-4-6) (1-16a-3-3) (1-16b-4-2) (1-16b-4-5) (1-17a-2-1) (1-17a-4-4) (1-17a-5-4) (1-18a-4-1) (1-18a-6-3) (1-19a-1-3) (1-19a-3-1) (1-19a-6-1) (1-19b-2-4) (1-19b-5-3) (1-20a-4-3) (1-20b-2-2) (1-20b-3-3) (1-21a-5-3) (1-22a-1-6) (1-22a-3-5) (1-22a-4-4) ¹¹
dedumbi 「横になる」	---	---
dedufi	더두피	(1-5a-6-1)
deduhe	더두허	(1-5b-2-1)
dele 「上(に)；皇上」	더러	(1-19a-6-5)
den 「高い」	던	(1-5b-6-2) (1-20b-5-4)
dere 「顔；机；方」	더러	(1-7a-1-3) ¹²

¹¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「더러」が「더리」のように見えるが、本来は「더러」と書かれていたものと考えられる。

deribumbi 「始める」	---	---
deribufi	더리부피	(1-15b-6-1) (1-18b-3-2)
deyembi 「飛ぶ」	---	---
deyere	더여리 ¹³	(1-22a-2-5)
diyan 「殿」	단	(1-13a-6-3) (1-19a-6-3)
diyocan 「漢語貂蟬」	도찬	(1-2a-2-2) (1-3a-2-3) (1-3b-2-2) (1-4b-4-5) (1-5b-3-2) (1-6a-2-1) (1-7a-3-3) (1-8a-3-4) (1-8a-6-2) (1-8b-5-1) (1-9a-3-1) (1-9b-5-5) (1-12b-6-7) (1-14b-2-1) (1-14b-3-1) (1-15a-3-3) (1-15a-5-4) (1-17a-2-3) (1-17b-3-2) (1-18a-4-2) (1-18b-4-1) (1-20a-3-5) (1-20b-3-5) (1-2a-2-2)
dobori 「夜」	도보리	(1-4b-4-3)
dolo 「内」	도로	(1-5b-4-5) (1-6b-6-4) (1-9b-1-7) (1-12a-2-1) (1-12b-4-2) (1-19b-2-1) (1-21b-3-4)
donjimbi 「聴く」	돈짐비	(1-13b-4-1)
donjici	돈지치	(1-3a-1-2)
donjiha	돈지하	(1-18b-6-3)
dorgi 「内」	돌기	(1-2a-4-5) (1-7a-6-2) (1-14a-1-5) (1-14a-4-7) (1-15a-4-4)
dosimbi 「入る；進む；進撃する」	---	---
dosici	도시치	(1-8a-4-6)
dosifi	도시피	(1-5a-3-3) (1-6a-6-4) (1-8a-6-7) (1-20a-3-1) (1-20b-2-3)
dosika	도시카	(1-14b-2-6) (1-19b-6-6)
dosime	도시며	(1-12b-4-3)
dosimbumbi 「入れる」	---	---
dosimbufi	도심부피	(1-11b-6-8)
dosimbuha	도심부하	(1-1b-2-2)
dosimbure	도심부리	(1-10a-5-7)
dubede 「先端に/で；先(前方)に/で；ついに」	두버더	(1-21b-6-1) ¹⁴
duka 「門」	두가 ¹⁵	(1-14a-1-6)
	두카	(1-14a-5-1) (1-22a-1-3)
dukai 「門の」	두캐	(1-19b-4-1) (1-19b-5-1)
dule 「元来；なんと」	두러	(1-2a-3-5)

¹³ 原書の当該箇所では、「더여리」ではなく「더여리」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

¹⁴ 原書の当該箇所では、ハングル表記による満洲語文語は「두버더」(dubede) と記されているが、対応する満洲文字表記 (ᡉᡉᡉᡉ) は dubade と記されており (ba の右側の付点が欠けている)、dubede の誤記であると考えられる。

¹⁵ 原書の当該箇所では、「두카」ではなく「두가」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

dulimbade 「中央に/で」	두림바더	(1-2b-6-4)
dulimbai 「中央の」	두림배	(1-5a-3-1) (1-6b-1-3)
dulin 「半分」	두린	(1-7a-1-5) ¹⁶
dung 「漢語董」 (dung taisy 「董太師」)	동	(1-7b-5-3)
dungdzo 「漢語董卓」	동조 ¹⁷	(1-4b-4-4) (1-6b-1-2) (1-6b-2-1) (1-7a-5-1) (1-8a-6-1) (1-8b-3-4) (1-8b-6-1) ¹⁸ (1-9a-1-2) (1-9a-6-4) (1-9b-4-1) (1-10b-4-5) (1-10b-6-5) (1-11b-1-4) (1-11b-5-2) (1-12b-6-1) (1-13a-4-3) (1-13b-6-5) (1-14a-3-1) (1-19a-6-2) (1-20a-1-1) (1-20b-1-5) (1-20b-5-1) (1-21a-1-4) (1-21a-2-2) (1-21a-5-1) (1-21a-6-1) (1-21b-4-1) (1-21b-6-4) (1-22a-3-2) (1-22a-4-2)
	동조 ¹⁹	(1-5b-1-6)
durimbi 「奪う」	---	---
durire	두리리	(1-21a-3-6)
ebsi 「～以来；こちらへ；このように」	업시	(1-13a-1-3)
ebšembi 「急ぐ」	---	---
ebšeme	업셔며	(1-1a-2-3) ²⁰ (1-16b-5-1)
ebuhu (ebuhu sabuhū 「慌てふためいて」)	어부후	(1-10b-4-3) (1-14a-4-3)
ebumbi 「降りる」	---	---
ebufi	어부피	(1-13a-5-6)
ebuhe	어부하	(1-1a-6-6)
efiyembi 「遊ぶ」 ²¹	어찜비	(1-10a-3-4)
ehe 「悪い」	어허	(1-12a-4-3) (1-12b-3-5)
eigen 「夫」	에건	(1-18b-3-4)
eitereme 「いつまでも」	에터러며	(1-6a-5-4)

¹⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹⁷ 『對音輯字』(上巻第12葉b面)では、漢字「卓」に対応する満洲文字はjoである。一方、『三譯總解(第一)』において「董卓」を表す語は、dungdzoに対応する形で現れている。また、岸田(1997: 154-263)は、『三譯總解』・『滿文三国志』・『満漢合璧三国志』の対校表を作成しているが、三者における当該語の形式の違いには言及していない。

¹⁸ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

¹⁹ 原書の当該箇所では、「동조」ではなく「동조」と記されている。これは誤記であるか、あるいは墨の欠落によるものと考えられる。

²⁰ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「업셔며」が「입셔며」のように見えるが、本来は「업셔며」と書かれていたものと考えられる。

²¹ 当該語は『增訂清文鑑』ではefimbiと綴られている。efimbi「頑要」などの見出し語を参照されたい。『大清全書』にはefiyembiとefimbiの両綴りが収録されている。それぞれefiyembiとwali efimbiの見出し語を参照されたい。『三譯總解』第1巻第1葉a面第1行のfung i ting de lioi bu diyocan i baru efihe「鳳儀亭呂布戲貂蟬」には、語幹efi-の形式が見られる。ただし、この部分には対応するハングル表記が存在しないため、表1には掲げていない。『三譯總解』の第1巻以外の箇所にもefi-の形式が見られる。(4-8a-2-3)のefimeを参照されたい。なお、動詞語幹efiye-～efi-「遊ぶ」に名詞化派生接辞-nが付加されて名詞efiyen～efin「遊戯」が形成されるが、清代の諸辞書におけるefiyenとefinの綴りの違いに関しては、池上(1955: 457)を参照されたい。

elben 「茅」	얼번	(1-1a-3-5)
elemangga 「却って」	어러망가	(1-19a-2-3)
elhe 「平安；緩やか」	얼허	(1-15b-4-7)
emdubei 「ひたすら」	엄두베	(1-9b-1-2)
emgeri 「一度；既に」	엄거리	(1-8a-5-1) (1-16a-5-2) (1-20b-5-7)
emgi 「一緒に」	엄기	(1-1a-3-4) (1-5a-5-7) (1-17a-1-2) ²² (1-20b-3-7)
emhun 「一人で；老いて子のいない」	엄훈	(1-20a-2-2)
emu 「一」	어무	(1-1b-5-6) (1-2b-1-7) (1-2b-4-3) (1-3a-1-4) (1-5b-4-6) (1-6b-6-5) ²³ (1-8b-1-1) (1-8b-6-4) (1-9a-5-1) (1-9a-6-2) (1-13b-6-1) (1-17b-4-2) (1-17b-4-5) (1-18b-2-6) (1-22a-2-3)
enduri 「神」	언두리	(1-15a-4-5)
enenggi 「今日」	어녕기	(1-2b-5-3) (1-3b-4-3) (1-7b-5-2)
ere 「この；これ；この人」	어러	(1-4a-4-7) (1-10a-5-2) (1-11a-4-4) (1-17a-4-2) (1-17b-2-3) (1-19a-1-1)
ergi 「方向」	얼기	(1-10a-4-3)
erin 「時」	어린	(1-4b-5-6) (1-8b-3-2)
eršembi 「仕える」	얼쉼비	(1-8b-5-5) ²⁴
esukiyembi 「叱り飛ばす」	---	---
esukiyeme	어수켜며	(1-10a-2-1)
esukiyere	어수켜리	(1-20b-6-1)
etuku 「服」	어투쿠	(1-8b-5-2) (1-18a-4-3)
fa 「窓」	파	(1-5b-3-4)
fafulambi 「禁ずる；伝令する」	---	---
fafulafi	파푸라피	(1-10a-6-1)
faha 「目玉；果物の核」	파하	(1-9a-4-1)
faihacambi 「煩悶して苛立つ」	---	---
faihacame	째하챠며	(1-12a-2-2)
fakcambi 「離れる、別れる」	---	---
fakceme	팍챠며	(1-19a-5-2)
fayangga 「魂」	파양가	(1-7a-4-1)
fejergi 「下」	퍼걸기	(1-11a-3-6) (1-15a-2-3)
fejile 「下(に)」	퍼지리	(1-20b-4-3)
fekumbi 「跳ぶ」	---	---
fekuki	퍼쿠��	(1-16b-4-3)
feser (feser seme 「粉々に」)	퍼슬	(1-9b-2-1)

²² 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「어무」が「어두」のように見えるが、本来は「어무」と書かれていたものと考えられる。

²⁴ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「얼쉼비」が「얼쉼비」のように見えるが、本来は「얼쉼비」と書かれていたものと考えられる。

fonci 「時より」	폰치	(1-18b-5-3)
fonde 「時に」	폰더	(1-8b-2-2)
fonjimbi 「問う」	---	---
fonjiha	폰지하	(1-8a-2-4) (1-19b-5-4)
fonjime	폰지며	(1-5a-4-1) (1-6b-3-2) (1-7b-4-9)
fonjire	폰지리	(1-20a-4-4)
forombi 「向く；振り向く；紡ぐ」	---	---
forofi	포로피	(1-9b-5-3) (1-19b-1-2) (1-21a-1-3) ²⁵
fumbi 「拭く」	풀비	(1-6a-3-7)
funcembi 「余る」	---	---
funcetala ²⁶	푼쳐타라	(1-8b-1-3)
fung 「漢語鳳」 (fung i ting 「鳳儀亭」)	풍	(1-14b-5-5) (1-15a-1-7) (1-20b-3-8)
fung 「漢語奉」 (fung siyan 「奉先」)	풍	(1-3a-2-6) (1-3b-5-5) (1-7b-1-1) (1-10b-6-1)
fungku 「手巾」	풍쿠	(1-6a-3-3)
funiyehe 「髪；毛」	푸녀히	(1-5b-3-6)
gaimbi 「とる」	---	---
gaifi	개피	(1-4b-5-2)
gaihaci (ci は格標識)	개하치	(1-8a-6-4)
gaiki	개키	(1-11a-4-1)
gaime	개며	(1-5a-1-2) (1-17b-1-6)

²⁵ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

²⁶ 母音調和に従えば、funcetala ではなく、funcetele のはずである。『増訂清文鑑』および『大清全書』においても funcetele と綴られている。しかし、『三譯総解』の当該箇所では、満洲文字表記・ハングル表記のいずれも funcetala に対応する形で現れている。なお、岸田（1997: 157）によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はいずれも funcetele である。

gaijara ²⁷	재자라	(1-21b-4-6)
gajimbi 「持ってくる」	---	---
gajifi	가지피	(1-11b-3-4) (1-11b-6-6)
galai 「手の；手で」	가래	(1-9a-5-2) (1-9a-6-3)
gamambi 「持っていく」	---	---
gamaifi	가마피	(1-3b-5-2)
gamaha	가마하	(1-3b-6-3) (1-4b-2-4)
gasambi 「怨む」	---	---
gasara	가사라	(1-6a-2-3)
gebu 「名」	거부	(1-3a-2-2) (1-18b-5-6)
gecuheri 「(漢訳)蟒緞；錦」	거주허리	(1-12a-6-3)
gehešembi 「こっくりする」	거하섬비	(1-9b-2-6)
gelembi 「恐れる」	---	---
geleci	거러치	(1-18a-6-5)
geleme	거러머	(1-8a-2-2)

²⁷ 満洲語文語の多くの辞書に gaijambi という見出し語が収録されている。例えば、von der Gabelentz (1864: 73)、3axarov (1875: 300)、安雙成 (1993: 294; 2018: 302)、胡增益 (1994: 310; 2020: 500-501)、Hauer (2007: 174-175)、福田 (2008: 318)、Norman (2013: 130)、郭秀昌・何榮偉 (2020: 404) などが挙げられる。しかし、これらの辞書において見出し語 gaijambi に清代満洲語文献の用例が示されている場合、実際に用例中に現れる形式は gaijara, gaijarangge, gaijarakū のみであり、gaijambi そのものの用例は見られない。

これに対して、Аврорин (2000: 192) は gaijara と gaiha が同一の語幹をもつと指摘している。Zikmundová (2013: 149) も、gaijara の語幹を gai- としている。さらに、Yang (2025: 101) は gaijara と gaire の清代文献における出現頻度を統計的に示しており、その結果からも明らかのように、gaire は清代前期において頻度が低く、後期の『擇齋志異』(1848 年)においてのみ gaijara の出現頻度を上回る。なお、『大清全書』には beye alime gaijaha 「自認。」が収録されているが、Yang (2025: 102) はここ gaijaha を再分析の結果とみなしている。拙論王海波 (2025: 249) では、gaijarakū, gaijarangge から語幹 gaijara- を抽出しているが、これも誤りであり、gaijara の語幹は gai- であると考えられる。なお、『女真訳語(乙種本)』における女真語には「哈扎魯」*gadža-ru (漢訳=要) があり、この *-ru を烏拉熙春 (2009: 106) は形動詞現在未来時語尾とみなしている。Yang (2025: 102) は、女真語の *gadža-ru と満洲語文語の gaijara とが同源であると述べている。

要するに、上表に示したとおり、o-「なる」の未完了相連体形が ojoro であるのと同様に、gai-「とる」の未完了相連体形は gaijara であると考えられる。

表 4 : o-, gai- の未完了相連体形

o-「なる」	ojoro	(oro)
gai-「とる」	gaijara	gaire

gaijara の gaire という形式の出現頻度は、清代前期には gaijara ほど高くなかったが、後期の『擇齋志異』(1848 年) では gaijara の出現頻度を上回っている。しかし、ojoro の oro という形式は、管見の限り清代の文献には見られない。一方、筆者が調査したシベ語では、ojoro に対応する形式は /ojure/ [ɔdʒur] であるが、/oro/ [ɔrɔ:] という語も存在する。この /oro/ [ɔrɔ:] については、李樹蘭・仲謙 (1986: 47) および久保ほか (2011: 128, 138) も言及しており、それぞれ orɔ および oro [oro:] の形式で記録している。久保ほか (2011: 128, 138) は、シベ語の oro を「じゃないか」、「～ではないか (直前の命題が当然であることを伝えるモダリティ形式)」と和訳しているが、その語源については言及していない。シベ語の /ojure/ [ɔdʒur] と /oro/ [ɔrɔ:] は形式と用法が異なり、共時には別語とみなすことができるが、語源的にはいずれも ojoro に由来する可能性がある。なお、満洲語文語の jetera と jidere (je-「食べる」と ji-「来る」の未完了相連体形) に対応するシベ語の形式は、通常それぞれ /jere/ [ʃer] と /jire/ [teir] であり、同様の現象が生じている。ただし、/jidere/ [teidər] の形式は /jidere ani/ [teidər ap] 「来年」などの表現に残っている。シベ語の /jere/, /jire/, /jidere ani/ の語形は複数の先行研究においても記録があり、筆者が調査した話者の発音においても確認されている。また、筆者の調査では、/jidere ani/ [teidər ap] 「来年」と /jire ani/ [teir ap] 「(誰かが) 来る年」のような区別が観察されている。

gelgun ²⁸ (gelgun akū 「敢えて」)	걸군	(1-3b-1-2) (1-4a-2-7) (1-10a-2-5) (1-12b-3-3)
geli 「また」	거리	(1-21b-4-2)
gemu 「皆」	거무	(1-13b-2-3) (1-20a-3-6)
genembi 「行く」	---	---
geneci	거너치	(1-5a-1-7) (1-18a-3-1)
genefi	거너피	(1-1a-4-3) (1-1a-6-3) (1-6a-5-3) (1-9a-2-1) (1-9b-2-3) (1-14a-1-4) (1-14b-6-1) (1-15a-1-6) (1-20b-5-3)
genehe	거너허	(1-4b-4-1) (1-5b-2-4) (1-20b-1-2)
geneki	거너키	(1-2b-3-4) (1-18a-3-6)
genembihe	거넘비허	(1-13a-2-5)
generakū	거너라쿠	(1-13a-1-8)
genere	거너러	(1-15a-1-1)
gese 「～のような」	거서	(1-17b-4-8) (1-19a-4-4) (1-22a-2-6)
gida 「槍」	기다	(1-13a-3-4) (1-13a-6-8) (1-14a-4-5) (1-14b-1-5) (1-18a-3-4) (1-20a-5-5) (1-20b-3-2) (1-21a-3-4) (1-21b-1-3) (1-21b-2-3) (1-21b-4-3)
gidambi 「押さえる ; 隠す ; 打ち負かす ; 頭を垂れる ; 塩漬けにする ; 鳥が卵を抱く」	---	---
gidafi	기다피	(1-13b-3-5)
gin 「秤 ; 斤」	긴	(1-12a-5-9)
gisun 「言葉」	기순	(1-2b-2-1) (1-7a-5-5) (1-11b-4-3) (1-12a-2-4) (1-13b-3-6)
gisurembi 「話す」	기수럼비	(1-14a-3-6)
gisurecki	기수러치	(1-4a-2-4)
gisurehe	기수러허	(1-12a-2-3)
gisurehekū	기수러허쿠	(1-17a-1-4) ²⁹
gisureki	기수러키	(1-1a-4-6)
gisurere	기수러러	(1-1a-2-7) ³⁰
goidambi 「久くなる」	---	---
goidame	괴다며	(1-6a-4-3)
golombi 「驚く」	---	---
golohobi	고로호비	(1-21a-2-1)
goro 「遠い」	고로	(1-21b-6-2)
gosimbi 「慈しむ、愛する ; 疼く」	---	---

²⁸ 当該語は『大清全書』および『増訂清文鑑』のいづれにおいても gelhun と綴られている。なお、岸田 (1997: 156, 157, 158) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ gelgun と gelhun である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯総解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。

²⁹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

³⁰ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

gosici	고시치	(1-17b-5-1)
gosime	고시며	(1-15b-2-5)
gosin 「仁愛」	고신	(1-15b-5-2)
gui 「玉(ぎょく)の」	귀	(1-15b-2-3)
guribumbi 「移す」	---	---
guriburakū	구리부라쿠	(1-9a-4-2)
gūnimbi 「思う」	구님비	(1-12b-3-6)
gūnici	구니치	(1-6a-5-5)
gūniha	구니하	(1-16a-1-5) ³¹ (1-19a-2-1) (1-19a-3-5)
gūnime	구니며	(1-8a-3-6)
gūnire	근니러	(1-12a-4-4)
gūnin 「心；意；考え」	근닌	(1-15b-4-5) (1-16b-2-4)
gūwaliyambi 「変わる」	---	---
gūwaliyaka	귀랴카	(1-11a-6-6)
hafasa 「諸官」	하파사	(1-13b-2-2)
haha 「男」	하하	(1-17b-2-7)
haji 「親しい」	하지	(1-10a-2-8) (1-11a-1-3)
han 「君主、皇帝」	한	(1-2a-6-7) (1-13a-2-1) (1-13a-6-1) (1-14a-3-3) (1-17b-6-6)
hanci 「近い」	한치	(1-20b-5-2)
hashū 「左」	핫후	(1-10a-4-1) (1-20a-1-2)
hecen 「城」	허천	(1-13a-1-6)
hehe 「女」	허허	(1-10a-3-1) (1-11a-1-4)
hehesi 「女たち」	허하시	(1-5a-3-5) (1-5a-5-1) (1-20a-4-2)
helme 「影」 ³²	헐머	(1-5b-5-2)
hendumbi 「言う」	---	---
hendume	현두며	(1-1a-2-5) (1-1b-2-5) (1-1b-5-1) (1-2a-3-3) (1-2a-4-3) (1-2a-6-3) (1-2b-1-5) (1-2b-6-5) (1-3b-4-2) (1-4a-3-4) (1-4a-6-3) (1-7a-6-7) (1-7b-6-5) (1-10a-2-2) (1-10b-5-1) (1-11a-1-1) (1-11a-3-3) (1-11b-2-1) (1-11b-2-5) (1-12a-1-1) (1-12b-1-5) (1-14b-4-4) (1-15a-6-5) (1-16b-5-5) (1-17a-3-6) (1-17b-1-3) (1-17b-3-3) (1-17b-6-4) (1-18a-5-3) (1-18b-2-4) (1-18b-4-2)
hengkilembi 「叩頭する」	---	---
hengkileme	헝카리며	(1-3b-3-3)
heo 「漢語侯」 (wen heo 「温侯」)	호	(1-11a-6-3) (1-19b-6-3) (1-20a-5-4)

³¹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「구니하」が「구니히」のように見えるが、本来は「구니하」と書かれていたものと考えられる。

³² 当該語は『増訂清文鑑』では helmen と綴られている。見出し語 helmen 「影」を参照されたい。『大清全書』には helme と helmen の両綴りが収録されている。それぞれ見出し語 helme 「影子。標子。」と edun helmen 「風影。」を参照されたい。

hese 「敕旨；言葉」	허스	(1-7a-5-6)
hiyandi 「献帝」	한디	(1-14a-3-2)
hokombi 「離れる；(妻を)離縁する」	---	---
hokoro	호코로	(1-12a-5-6)
hono 「なお；少しも」	호노	(1-12a-2-6)
hūdun 「速い」	후둔	(1-17b-5-2) (1-18a-2-4) (1-21a-5-7)
hūlambi 「読む；呼ぶ；雄鶲が鳴く」	---	---
hūlafi	후라피	(1-10a-5-1)
hūlha 「泥棒」	흘하	(1-18a-2-2) (1-18a-6-2)
hūlhambi 「盗む」	---	---
hūlhame 「密かに」	흘하며	(1-5b-1-5) (1-6b-5-3) (1-11a-1-6) (1-18a-1-5)
hūsun 「力」	후순	(1-16a-6-3)
hūwa 「庭」	후	(1-13b-3-1)
hūwaitambi 「繋ぐ」	---	---
hūwaitafi	췌타피	(1-14b-1-4)
hūwaitahabi	췌타하비	(1-19b-4-3)
i 「の；で」	이	(1-1a-4-1) ³³ (1-1a-6-1) (1-2a-6-8) (1-3a-6-5) (1-4a-1-4) (1-4b-1-4) (1-4b-2-2) (1-5a-5-6) (1-5b-5-1) (1-6b-6-3) (1-7b-4-4) (1-7a-3-7) (1-7a-5-4) (1-9a-2-3) (1-9a-3-3) (1-9b-4-6) (1-10a-3-2) (1-11a-6-4) (1-11b-4-4) (1-12b-6-2) (1-13a-2-2) (1-13a-3-9) (1-13a-5-2) (1-13a-6-2) (1-13b-1-2) (1-13b-2-5) (1-14a-3-4) (1-14b-1-2) (1-14b-3-4) (1-14b-5-4) (1-15a-2-5) (1-15a-4-3) (1-15a-6-3) (1-15b-1-3) (1-16b-1-2) (1-16b-2-3) (1-17a-1-5) (1-17a-4-6) (1-17a-6-2) (1-17b-2-5) (1-17b-4-7) (1-17b-6-7) (1-18b-5-5) (1-19a-1-5) (1-19a-6-4) (1-19b-3-7) (1-20b-3-6) (1-20b-5-6) (1-21a-3-3) (1-21b-3-3) (1-21b-5-6) (1-22a-1-2) (1-22a-3-3)
i 「漢語儀」	օ] ³⁴	

³³ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

³⁴ 満洲文字の (1) 「ᡥ」と (2) 「ᡳ」のどちらもメレンドルフ式転写では i となるが、通常、満洲語文語の属格・具格の i は (スペースに続く場合に) 満洲文字では (1) の形をとり、三人称単数人称代名詞や固有名詞に現れる i (「懿」など) は満洲文字では (2) の形をとる (早田 2008: 31)。fung i ting 「鳳儀亭」の i 「儀」は固有名詞に現れる i であるため、満洲文字では (2) の形をとるはずである。しかし、『三譯總解』原書における fung i ting 「鳳儀亭」の i 「儀」の満洲文字は、(1) の形と (2) の形の両方が見られる。具体的には、(1-14b-5-6), (1-15a-1-8), (1-20b-3-9) の i 「儀」は (1) の形であり、(1-1a-1-2) の i 「儀」は (2) の形である。(1-1a-1) にある fung i ting de lioi bu diyocan i baru efihe 「鳳儀亭呂布戲貂蟬」には対応するハングル表記がないため、表 1 には掲げていない。岸田 (1997: 159) もこの点について言及している。また、岸田 (1997: 159, 160) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における fung i ting 「鳳儀亭」の i 「儀」は、いずれも (2) の形をとっている。

(fung i ting 「鳳儀亭」)		(1-14b-5-6) (1-15a-1-8) (1-20b-3-9)
ice 「新しい」	이춰	(1-5a-5-4)
ici 「右；方向」	이치	(1-10a-4-2) (1-20a-1-3)
icihiyambi 「処理する」	---	---
icihiyame	이치하yme	(1-8b-1-5)
ijimbi 「梳る」	---	---
ijime	이지며	(1-5b-4-1)
ijishūn 「従順な」	이짓훈	(1-7a-5-7)
ilgai 「花の」 ³⁵	일개	(1-16b-3-5)
ilibumbi 「立たせる；立てる；止める」	---	---
ilibufi	이리부피	(1-1a-2-4)
ilimbi 「立つ；起きる；止まる；休む」	이림비	(1-13b-1-4)
ilifi	이리피	(1-5b-3-3) (1-6b-5-2) (1-9a-3-5) (1-15a-2-7) (1-18b-2-3) ³⁶
iliha	이리하	(1-9a-2-5) ³⁷
ilihabi	이리하비	(1-6a-1-7) (1-9b-6-4) (1-20b-4-4)
ilirakū	이리라쿠	(1-4b-6-1)
ilire	이리러	(1-5a-6-2)
imbe 「彼を；彼女を」	임버	(1-8a-1-2) (1-15b-2-1)
inenggi 「日」	이녕기	(1-2a-6-5) (1-2b-3-1) (1-3b-4-5) (1-4a-5-4) (1-4b-5-4) (1-9a-1-1) (1-11b-3-1) (1-11b-6-2) (1-12a-4-6) (1-13b-6-2) (1-17b-4-3) (1-18b-1-6)
inenggidari 「毎日」	이녕기다리	(1-8a-4-1)
ini 「彼の；彼女の」	이니	(1-9a-5-3)
inu 「そうだ；是；も」	이누	(1-17a-2-4)
ishunde 「互いに」	잇훈더	(1-19a-5-1)
isimbi 「足りる；至る、及ぶ、届く」	---	---
isitala	이시타라	(1-4b-5-8)
isinambi 「着く、至る」	---	---
isinafi	이시나피	(1-14a-1-8)
jabšan 「僥倖」	잡산	(1-16a-3-2)
jabumbi 「答える」	---	---
jabufi	자부피	(1-6b-4-5)
jabume	자부며	(1-5a-5-2) (1-20a-5-2)

³⁵ 当該語は『増訂清文鑑』では ilha と綴られている。ilha 「花」などの見出し語を参照されたい。『大清全書』には ilga と ilha の両綴りが収録されている。見出し語 ilga 「花。」や ilha sirdan moro 「大花碗。」などを参照されたい。

³⁶ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

³⁷ 原書の当該箇所における満洲語文語の満洲文字表記は、印刷が不鮮明である。

jafambi 「取る；掴む；捕らえる、逮捕する；氷が張り詰める；交わりを結ぶ」	---	---
jafafi	쟈파피	(1-6a-3-4) (1-13a-3-5) (1-14a-4-6) (1-16b-3-3) (1-16b-5-3) (1-17a-3-5) (1-18a-3-5) (1-18a-5-2) (1-20a-5-6)
jafaha	쟈파하	(1-21b-1-2)
jafahai	쟈파해	(1-13a-6-9) (1-14b-1-6)
jai 「第二；再び；更に」	재	(1-4b-5-3) (1-6a-6-2) (1-8a-2-3) (1-10a-5-4) (1-11b-6-1)
jaka 「物；隙間；所；～たばかり」	쟈카	(1-4b-1-5) (1-12a-5-3)
jakade 「～の所に/で；～ので」	쟈카더	(1-2b-3-6) (1-5b-2-3) (1-5b-3-5) (1-14b-5-9) (1-15b-4-3) (1-20a-5-1) (1-20b-6-2) (1-21a-3-7) (1-21b-3-1)
jalan 「世；世代；節；兵の一隊；甲喇(軍団の単位)」	쟈란	(1-17a-4-3) (1-17a-5-3) (1-17b-2-4) (1-19a-1-2)
jalin 「為」	쟈린	(1-17a-1-6)
jembi 「食べる」	점비	(1-6b-1-7)
jembi 「我慢する」	---	---
jenderakū 「心に忍びず」	전더라쿠	(1-19a-5-3)
jerguwen 「欄干」	절권	(1-15a-2-4) (1-16b-3-1)
ji 「轍」	지	(1-13a-3-3)
jilgan 「声；音」	질간	(1-20b-5-5)
jili 「怒り」	지리	(1-10a-1-2) (1-10b-1-3)
jimbi 「来る」	집비	(1-15a-3-4)
jici	지치	(1-3a-6-7)
jifi	지피	(1-2b-6-2) (1-4a-2-2)
jihe	지허	(1-3a-5-5) (1-14a-6-2) (1-18a-1-6) (1-20a-6-2)
jime	지며	(1-22a-3-1)
jing 「常々、只管(漢語淨)」	징	(1-7a-6-1) (1-9a-4-3)
jing 「正に、丁度(漢語正)」	징	(1-8b-2-3)
jiyangjiyūn 「漢語將軍」 ³⁸	장쥔	(1-1b-3-1) (1-2a-3-4) (1-15b-3-1) (1-4a-1-1) (1-4b-2-1) (1-16a-3-4) (1-16a-6-1) (1-16b-1-1) (1-16b-2-2) (1-17a-4-5) (1-17a-6-1) (1-18a-5-4) (1-18b-5-4) (1-19a-1-4)
jobombi 「苦労する；憂える」	---	---
joboro	죠보로	(1-6a-2-4) (1-7b-4-5)

³⁸ 当該語は『増訂清文鑑』では jiyangjiyūn と綴られている。『大清全書』には jiyangjiyūn と jiyangjiyūn の両綴りが収録されている。なお、『大清全書』には ilhi jiyangciyūn 「副將軍」という語も収録されており、jiyangciyūn の語形が見られるが、誤記である可能性がある。

jombumbi 「思い出させる；進言する；注意する；明かにする」	---	---
jombume	좀부며	(1-3a-5-4)
jorimbi 「指差す；指示する」	죠림비	(1-9a-6-1)
jorime	죠리며	(1-9a-6-6)
jortai 「故意に」	줄태	(1-6a-2-2)
jugūn 「道」	쥬군	(1-14b-1-1)
jui 「子」	쥬	(1-1b-6-1) (1-3a-1-6) (1-3a-2-5) (1-4b-1-2) (1-15a-5-2) (1-15b-1-6) (1-18b-5-2)
juleri 「南(に)；前(に)」	쥬러리	(1-13a-4-1) (1-13a-5-3) (1-13b-1-3) (1-13b-5-6) (1-16b-1-3)
julesi 「南に；前に」	쥬러시	(1-7a-1-1)
jurcembali 「違背する」	줄첨비	(1-3b-1-4)
juwan 「十」	준	(1-12a-5-8)
kadalabumbi 「管轄させる；管轄される」	---	---
kadalabure	카다라부러	(1-19a-3-2)
kadalambi 「管轄する」	---	---
kadalame	카다라머	(1-8a-1-4)
kai 「指定や断定の終助詞」	캐	(1-11b-1-3) (1-11b-5-1) (1-17b-3-1)
karcambi 「ぶつかる」	---	---
karcafi	칼챠피	(1-22a-4-1)
kenehunjembì 「疑う」	---	---
kenehunjeme	커너훈져며	(1-7b-3-2) (1-19b-2-2)
kenehunjerahū	커너훈져라후	(1-18a-2-3) ³⁹
korsombi 「悔恨する；恨む」	콜솜비	(1-17a-2-2)
lakcambi 「断つ」	---	---
lakcakini	락챠키니	(1-16b-2-5)
li 「漢語李」 (li žu 「李儒」)	리	(1-10b-3-4) (1-10b-4-1) (1-11a-3-1) (1-11b-2-3)
lioi 「漢語呂」 (lioi bu 「呂布」)	류	(1-1a-5-1) (1-1b-1-3) (1-1b-4-2) (1-2a-4-1) (1-4a-3-2) (1-4a-4-4) (1-4b-3-2) (1-4b-6-2) (1-5b-1-1) (1-6a-1-2) (1-6a-4-1) (1-6b-2-2) (1-6b-4-1) (1-7a-3-1) (1-7a-5-2) (1-7b-2-5) (1-7b-4-2) (1-7b-6-3) (1-8a-3-1) (1-9a-1-7) (1-9a-4-4) (1-9b-1-4) (1-9b-4-4) (1-10a-1-4) (1-10a-6-2) (1-10b-1-1) (1-11b-6-3) (1-12b-1-1) (1-13a-3-1) (1-13a-6-6) (1-13b-5-2) (1-)

³⁹ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「커너훈져라후」が「커너훈져라후」のように見えるが、本来は「커너훈져라후」と書かれていたものと考えられる。

		13b-6-3) (1-14a-4-1) (1-14b-3-2) (1-15a-1-2) (1-15a-6-1) (1-16b-4-6) (1-17a-3-1) (1-17b-1-1) (1-17b-6-2) (1-18b-2-1) (1-19b-1-4) (1-19b-3-5) (1-20a-3-3) (1-20b-2-5) (1-20b-6-3) (1-21a-3-1) (1-21a-4-1) (1-21a-5-4) (1-21b-2-1) (1-21b-5-2)
loho 「腰刀」	로호	(1-13a-5-7)
madambi 「脹れる ; 利息を生む」	---	---
madaga ⁴⁰	마다가	(1-5b-6-4)
majige 「少し」	마지거	(1-4b-1-6) (1-12b-6-4) (1-14a-2-1)
maktambi 「投げる ; 賞賛する」	---	---
maktaha	막타하	(1-21b-1-6)
mangga 「難しい ; 硬い ; 強い ; 高価な」	망가	(1-17b-2-6)
manggi 「～た後」	망기	(1-1a-6-7) (1-4b-2-5) (1-19b-5-5)
marambi 「遠慮する ; 拒む」	마람비	(1-4a-3-1)
medege 「消息」	며드거	(1-5a-1-1)
mei 「漢語郿」 (mei u 「郿塢」)	미	(1-13a-1-4)
mejige 「消息」	머지거	(1-5a-2-2)
mimbe 「私を」	밈버	(1-8a-1-1) (1-12b-2-3) (1-14b-6-2)
minde 「私に」	민더	(1-1b-5-3) (1-2b-1-6)

⁴⁰ 『三譯総解』(1-5b-6-4)に見られる madaga (마다가) は、原書において beye den bime madaga という文脈に出現している。原書における beye den bime madaga の朝鮮語訳は「呂이痈고파지더라」であり、madaga に対応する部分は「파지더라」である。また、『満漢合璧三国志』において beye den bime madaga に対応する漢語は「極長大」であり、madaga に対応する漢語は「大」である。

金東昭 (1990[1977]: 95) は、『三譯総解』(1-5b-6-4)の madaga について、madaka の有氣音 k が無氣音化を経た形式であると述べている。しかし、madaka という語形は『大清全書』や『増訂清文鑑』には収録されていない。満洲語文語には動詞語幹 mada- 「脹れる；利息を生む」が存在し、その動詞語幹に完了接辞が付いた形式は通常 madaha である。『大清全書』には見出し語 madaha -mbi 「腫突起。加厚。氣盈發脹。加大了些。」が収録されており、『増訂清文鑑』には delihun madaha 「肚脹」などの見出し語が収録されている。『満露辞典』(Захаров 1875: 870) にも、mada- に付く完了接辞が -ha であると記されている。

前述した madaga 「(体が) 大きい」については、「脹れた」という意味から転じて「(体が) 大きい」を表すと解釈することが可能である。したがって、madaga は動詞語幹 mada- 「脹れる；利息を生む」に完了接辞が付加された形式に由来する可能性があると考えられる。しかし、満洲語文語の完了接辞には複数の変種が存在するものの、その中に -ga の形式は含まれていない。madaga を完了形 madaha そのものではなく、madaha に由来する派生語と解釈することも可能であるが、完了形 madaha そのものである可能性も排除できない。というのも、『増訂清文鑑』などにおける h が、『三譯総解』では g と綴られる例が他にも確認されるためである（例えば、表 1 に掲げた gelgun, talgū の項目を参照されたい）。『増訂清文鑑』の oho 「脅脹窩」は、『三譯総解』(4-9b-4-2)では ogo と綴られている。また、madaha の異形 madaga は方言的発音を反映した形式である可能性も考えられる。

なお、『増訂清文鑑』には madagan 「利息」、『大清全書』には madaga 「利錢。」がそれぞれ収録されているが、これら二つの語形は同一語の異なる変種である。「利息、利錢」を意味するこの madagan～madaga は、mada- に完了接辞が付いた形式ではなく、mada- に名詞化派生接辞が付いた形式であり、前述した madaga 「脹れた、(体が) 大きい」とは別語であると考えられる。

mini 「私の」	미니	(1-1a-3-3) (1-1b-3-4) (1-2b-1-3) (1-3a-2-4) (1-4a-6-4) (1-10a-2-7) (1-11a-1-2) (1-12a-5-2) (1-15b-4-4) (1-15b-6-2)
miyamiga 「女の頭につける 飾り物の総称」 ⁴¹	마미가	(1-4b-1-3)
morin 「馬；午」	모린	(1-1a-6-4) (1-4b-5-5) (1-13a-3-6) (1-13b-5-4) (1-14a-5-4) (1-14a-6-3) (1-19b-3-8)
mujilen 「心」	무지련	(1-11a-6-5) (1-15b-5-4) (1-16a-4-2) (1-16b-6-2)
muke 「水」	무커	(1-6a-3-6) (1-9b-1-1) (1-19a-4-1)
muse 「私たち(包括的)」	무서	(1-18b-3-3)
mutembi 「できる」	무템비	(1-8a-1-5)
muterakū	무터라쿠	(1-11b-1-2) (1-17b-2-1)
na 「地」	나	(1-22a-4-3)
nantuhūn 「汚い」	난투훈	(1-16a-1-1) (1-16a-5-3)
nemembi 「増す」	---	---
nememe	너머며	(1-7b-3-1)
ni 「の；で」	니	(1-1b-6-7) (1-5a-1-4) (1-8a-4-3) (1-9b-6-2) (1-14a-5-7) (1-14b-5-8) (1-15a-2-2) (1-20b-4-2)
nikai 「終助詞 ni + 終助詞 kai」	니캐	(1-2a-3-7) ⁴²
nikembi 「もたれる」	---	---
nikefi	나커피	(1-20b-3-4)
nimeku 「病気」	니머쿠	(1-8b-3-6) (1-12b-6-3)
nimembi 「病む；痛む」	---	---
nimeme	니머며	(1-12a-1-4) ⁴³
nimere	니머러	(1-8b-4-2)
niyakūrambi 「ひざまずく」	---	---
niyakūrafi	냐쿠라피	(1-13b-3-3)
niyalma 「人」	날마	(1-1b-3-6) (1-1b-5-2) (1-3a-6-2) (1-5a-5-5) (1-5b-4-7) (1-6b-6-6) (1-10b-3-1) (1-12b-2-2) (1-19a-2-4) (1-19b-5-2) (1-22a-2-4)
niyengniyeri 「春」	녕녀리	(1-8b-3-1)
okdombi 「迎える」	---	---

⁴¹ 当該語は『増訂清文鑑』では miyamigan と綴られている。一方、『大清全書』には miyamiga と miyamigan の両綴りが収録されており、原記録はそれぞれ baitakū unthuhun miyamiga be nakabure be baire jalin 「爲請省無益之繁文等事。」と miyamigan yangsangga dambuha faksi 「靚粧刻飾。」である。また、この語については、「首飾。文飾。」を漢訳とする見出し語も『大清全書』に収録されているが、そこに示された満洲語の語形 (/만자/) は誤記であると考えられる。なお、岸田 (1997: 157) によれば、『満文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ miyamigan と miyamihan である。

⁴² 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「니캐」が「니캐」のように見えるが、本来は「니캐」と書かれていたものと考えられる。

⁴³ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

okdome	옥도머	(1-14b-4-2)
okson 「歩み、一步」	옥손	(1-21b-5-5)
olhombi 「乾く；恐れる」	---	---
olhoro	올호로	(1-12b-5-1)
ombi 「なる」	---	---
oci	오치	(1-2a-2-4) (1-7b-2-2) (1-11b-4-7) (1-17a-4-8) (1-17b-2-2)
ofi	오플	(1-8b-3-3) (1-12a-1-5) (1-12b-6-6) (1-18b-3-6) (1-21a-6-3)
oho	오호	(1-7a-4-5) (1-16a-5-4) (1-16a-6-6) (1-18b-1-8) (1-21b-6-3)
ojorahū	오조라후	(1-3a-5-1)
ojorakū	오조라쿠	(1-16a-6-5) (1-17a-5-1)
ojoro	오조로	(1-17a-6-4)
omo 「池」	오모	(1-16b-4-1)
omoi 「池の」	오미	(1-5b-4-4) (1-6a-1-4)
orho 「草」	올호	(1-21b-3-2)
orin 「二十」	오린	(1-12a-6-2)
ping 「漢語屏」 (wei ping 「圍屏」)	핑	(1-9b-6-1)
sabuhū (ebuhu sabuhū 「慌てふためいて」)	사부후	(1-10b-4-4) (1-14a-4-4)
sabumbi 「見る」	사봄비	(1-5b-5-3)
sabufi	사부피	(1-6b-3-1) (1-9b-5-1) (1-14b-4-1) (1-21a-1-6)
saburakū	사부라쿠	(1-20a-3-7)
sabure	사부러	(1-18b-1-5)
sain 「良い」	샌	(1-3b-4-4) (1-11b-4-2)
sakda 「老いた」	삭다	(1-1b-3-5) (1-3a-6-1) (1-18a-2-1) (1-18a-6-1)
sambi 「知る」	삼비	(1-2a-5-4)
safi	사피	(1-7a-6-6) (1-7b-4-8) (1-9b-1-6) ⁴⁴
saha	사하	(1-16b-6-5)
sarkū	살쿠	(1-2a-3-6) (1-12a-2-7) (1-20b-1-4)
sargan 「妻」 (sarganjui 「女の子」)	살간	(1-1b-5-7) (1-3a-1-5) (1-4b-1-1) (1-7b-4-1) (1-8a-2-1) (1-15a-5-1) (1-15b-1-5) (1-17a-4-7) (1-17a-6-3) (1-18b-3-5) (1-18b-5-1)
sarilambi 「酒宴を開く」	---	---
sarilara	사리라라	(1-2b-6-3)
sarin 「酒宴」	사린	(1-2b-4-5) (1-3b-5-3)

⁴⁴ 満洲語文語では、通常 sabu- は「見る」を、sa- は「知る」を意味する。しかし、原書の(1-7a-6-6), (1-7b-4-8), (1-9b-1-6)に見られる safi は、文脈から判断すると「知って」ではなく、むしろ「見て」と解釈すべき用例であると考えられる。

sejen 「車」	서전	(1-1b-6-3) (1-13a-3-8) (1-13a-5-4) (1-19b-2-3)
sembi 「言う」	슴비	(1-2a-1-2)
seci	스치	(1-11a-4-2) (1-16a-2-2)
sefi	스피	(1-10a-3-5) (1-12a-5-7) (1-12b-3-7) (1-16b-2-6) (1-18a-3-3) (1-19a-3-6)
seme	스머	(1-3a-3-4) (1-3a-5-2) (1-3b-1-5) (1-3b-6-2) (1-5b-1-4) (1-6b-4-4) (1-9b-2-2) (1-10a-5-8) (1-19a-1-7)
sere	스러	(1-2b-3-5) (1-3a-3-7) (1-15b-4-2) (1-16b-4-4) (1-18a-3-7)
seolembi 「思慮する」	---	---
seole	소러	(1-4a-1-2)
seyembi 「恨みを抱く」	---	---
seyeme	서여며	(1-10b-2-2)
si 「あなた」	시	(1-7b-5-1) (1-10a-2-3) (1-12a-4-1) (1-14b-5-1)
sidende 「間に」	시던더	(1-21b-5-1)
sikse 「昨日」	식서	(1-2a-6-4) (1-12a-1-3)
simbe 「あなたを」	심벼	(1-1b-5-5) (1-3a-4-1) (1-12a-3-1) (1-17b-1-5)
sinde 「あなたに」	신더	(1-3a-1-3)
sini 「あなたの」	시니	(1-2a-4-4) (1-2b-3-2) (1-16b-6-1)
siyan 「先」 (fung siyan 「奉先」)	샨	(1-3a-3-1) (1-3b-5-6) (1-7b-1-2) (1-10b-6-2)
songgombi 「泣く」	---	---
songgome	송고마	(1-15a-5-5) (1-16b-5-4)
sujumbi 「走る」	---	---
sujume	수쥬며	(1-22a-2-7)
sujure	수쥬러	(1-21a-5-6)
sumbi 「脱ぐ；解く」	---	---
surakū	수라쿠	(1-8b-5-3)
susai 「五十」	수새	(1-21b-5-4)
suwaliyambi 「混ぜる」	---	---
suwaliyame (amu suwaliyame「眠気まじりに」)	쉬라며	(1-9b-4-3)
sytu 「漢語司徒」	스튜	(1-4a-4-1) (1-15b-1-2)
šangnambi 「賞する」	---	---
šangname	샹나며	(1-11b-3-7) (1-12a-6-4)
šolo 「隙間；暇」	쇼로	(1-18a-1-3)
šu (šu ilgai 「蓮の花の」)	슈	(1-16b-3-4)
šun 「太陽」	순	(1-18b-1-3)
tafukū 「階段」	타푸쿠	(1-13b-1-1)

tafumbi 「登る」	타풀비	(1-13a-6-5)
taisy 「漢語太師」 ⁴⁵	태스	(1-2a-6-6) (1-2b-6-1) (1-3a-6-4) (1-3b-3-1) (1-3b-4-1) (1-4a-1-3) (1-5a-4-2) (1-5a-5-3) (1-7b-5-4) (1-8a-1-1) (1-10b-5-2) (1-11a-3-4) (1-15b-5-1)
taka 「暫く」	타카	(1-7b-2-3)
takambi 「見知る」	---	---
takafi	타카피	(1-7a-3-5)
takūrambi 「遣わす」	---	---
takūrara	타쿠라라	(1-5a-3-4) (1-20a-4-1)
tana 「真珠の一種」	타나	(1-15b-2-2)
tanggū 「百」	탕구	(1-13b-2-1)
targambi 「斎戒する；忌む」	---	---
targarakū	탈가라쿠	(1-12b-5-2)
targū 「太った」 ⁴⁶	탈구	(1-21a-6-2)
tašarambi 「誤る」	---	---
tašaraha	타샤라하	(1-4a-4-8)
tatambi 「引く；宿る」	---	---
tatame	타타머	(1-17a-3-4) ⁴⁷ (1-18a-5-1)
te 「今」	터	(1-16a-3-1) (1-16a-6-2) ⁴⁸
tebeliyembi 「抱く」	---	---
tebeliyeme	터벼려며	(1-16b-5-2)
tebumbi 「座らせる；住ませる；職に就かせる；盛る；植える；納棺する；酒を作る」	---	---

⁴⁵ 『増訂清文鑑』の見出し語 taiši 「太師」および taidzy taiši 「太子太師」では、漢字「師」に対応する満洲文字は ši である。また、『對音輯字』(上巻第7葉a面)においても、漢字「師」に対応する満洲文字は ši である。一方、『三譯總解(第一)』において「太師」を表す語は、taisy に対応する形で現れている。また、岸田 (1997: 154-263) は、『三譯總解』・『滿文三国志』・『満漢合璧三国志』の対校表を作成しているが、三者における当該語の形式の違いには言及していない。

⁴⁶ 当該語は『増訂清文鑑』では tarhūn と綴られている。tarhūn 「肥」などの見出し語を参照されたい。一方、『大清全書』には tarhū と tarhūn の両綴りが収録されている。それぞれ見出し語 tarhū 「肥。」および tarhūn 「肥。」を参照されたい。なお、岸田 (1997: 160) によれば、『滿文三国志』および『満漢合璧三国志』では、対応箇所における語形はそれぞれ targū と tarhū である。성백인 (1984: 27) によれば、『三譯總解』における towa 「火」、labdo、gelgun akū、targū は主として順治初年以前の文献に見られるものである。

⁴⁷ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁴⁸ 当該箇所の te は、『三譯總解(第一)』原書において jiyangjiyūn te hūsun buci ojorakū oho という文脈に出現している。原書における朝鮮語訳は「장군이 이제 힘써도 되지 못할리라」である。岸田 (1997: 159) はこの朝鮮語訳を日本語で「将軍が今力(を)尽くしてもだめであろう」と訳している。すなわち、主語は「장군」・「將軍」(呂布) となっている。しかし、漢文『三国志演義』における原文は「不得復事英雄」

(もう英雄に仕えることはできない) であり、主語は「將軍」(呂布) ではなく、「貂蟬」であると考えられる。また、漢文原文には te 「今」に相当する語も存在しない。したがって、『三譯總解』におけるこの te 「今」は誤記であり、de 「に」の方が妥当であると考えられる。また、『三譯總解』原書の朝鮮語訳も te 「今」に基づいた誤訳であると考えられる。岸田 (1997: 159) もこの箇所の te は de の誤記であると述べている。なお、岸田によれば、『滿文三国志』および『満漢合璧三国志』における対応箇所の語形は、それぞれ te と de である。

tebufi	터부피	(1-1b-6-5) ⁴⁹
teike 「今し方」	테커	(1-20a-5-7)
teile 「だけ」	테러	(1-19a-1-6)
tembi 「座る；住む」	---	---
tefi	터피	(1-6b-1-5) (1-14a-2-2) (1-19a-6-6) (1-19b-2-5)
tere 「その；それ；その人；あの；あれ；の人」	터러	(1-2a-2-1) (1-4b-4-2) (1-8b-2-1) (1-10b-3-2) (1-11b-3-2)
tereci 「それ/あれ/彼/彼女より；それから；さて；やがて」	터러치	(1-5b-3-1) (1-8a-3-3) (1-12b-4-1)
ting 「漢語亭」 (fung i ting 「鳳儀亭」)	팅	(1-14b-5-7) (1-15a-2-1) (1-20b-4-1)
tomsombi 「骨揚げする；拾う」	---	---
tomsome	톰소머	(1-21b-4-5)
torombumbi 「慰める」	---	---
torombu	토롬부	(1-11b-4-5)
tucibumbi 「出す」	---	---
tucibufi	투치부피	(1-3b-2-4) (1-7a-1-6)
tucibuhe	투치부허	(1-10a-6-6) (1-11a-2-3)
tucibuki	투치부키	(1-16a-4-4)
tucibure	투치부러	(1-17b-5-3)
tucimbi 「出る」	---	---
tucifi	투치피	(1-14a-5-3) (1-14b-4-3)
tucime	투치머	(1-6a-5-2)
tucirakū	투치라쿠	(1-8b-1-6)
tucire	투치러	(1-22a-1-5)
tuhebuku 「(漢訳)千斤棧；墜角；垂旒；繡簾」 ⁵⁰	투허부쿠	(1-6b-6-2)

⁴⁹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁵⁰ 『増訂清文鑑』および『五体清文鑑』では、tuhebuku を漢語で [1] 「千斤棧」、[2] 「墜角」、[3] 「垂旒」と訳している。田村ほか (1966-1968) は、これらをそれぞれ日本語で [1] 「城門の上から落として門を鎖す扉板」、[2] 「数珠の背雲 (tugi) や記念 (to) の端に嵌めた宝石」、[3] 「玉を紐で貫いて冠の前後に垂らす飾りもの」と訳している。一方、『三譯総解』原書における当該箇所の tuhebuku は、「珠簾」の意味で用いられている。tuhebuku は、tuhe- 「倒れる；落ちる」に使役・受身接辞 -bu と名詞形成接辞 -ku が付加されて形成された語であり、「垂らされたもの」を表す語であると考えられる。「珠簾」もまた、「垂らされたもの」の一種と捉えることができよう。

『三譯総解』原書におけるこの tuhebuku は、ucei tuhebuku の中で用いられており、ucei tuhebuku に対する原書の朝鮮語訳は「지개쥬름」である。「지개」は「지개문」(南廣祐 1997: 1269)、「출입구」(高麗語言研究院 2006: 523) を意味する。「지개문」と「출입구」は日本語ではそれぞれ「板の間や台所と部屋の間に設けた一枚戸」と「出入り口；戸口」である(두산동아 사서편집국 1994: 1809, 1930)。したがって、『三譯総解』原書におけるこの「지개」は、満洲語文語の uce 「戸」に対応すると考えられる。また、「쥬름」は現代語では「주름」と書かれる。この語は漢字語であり、漢字で書くと「珠簾」である。日本語では「珠簾；玉で飾ったすだれ；玉垂れ」である(두산동아 사서편집국 1994: 1776)。『三譯総解』原書におけるこの「쥬름」は tuhebuku に対応すると考えられる。実際、清学書『同文類解』上巻第 35 葉

tuhebumbi 「倒す；落とす」	투허붐비	(1-9b-1-3)
tuhebume	투허부며	(1-19a-4-5)
tuhembī 「倒れる；落ちる」	---	---
tuheke	투허커	(1-22a-4-5) ⁵¹
tuhēnembi 「倒れる；落ちていく」	---	---
tuhenehe	투허너허	(1-21b-3-5)
tule 「外に」	투러	(1-6b-3-3) (1-19b-4-2)
tulergi 「外」	튜럴기	(1-7a-1-7) (1-22a-2-1)
tulesi 「外に」	투러시	(1-5b-4-2)
tunggen 「胸」	퉁건	(1-22a-3-4)
turgun 「原因、理由」	툴군	(1-1a-4-4)
turgunde 「～の原因/理由で」	툴군더	(1-1b-3-3) (1-10b-5-4) (1-11a-2-1) (1-11a-5-2)
tuttu 「そのように；あのよう に」	튠툐	(1-2b-4-2)
tuwakiyambi 「見張る」	---	---
tuwakiyame	툐캬며	(1-8b-5-4) ⁵²
tuwambi 「見る」	튜암비	(1-7a-2-4) ⁵³ (1-9a-4-7)
tuwaci	튜와치	(1-5b-4-3) (1-6a-1-1) (1-6b-1-1) (1-6b-5-4) (1-9b-5-4) (1-14a-2-3) (1-15a-4-1) (1-19b-1-3) (1-19b-3-4) (1-20b-2-4)
tuwafī	튜와파	(1-6a-5-1) (1-18a-1-4)
tuwaki	튜와키	(1-5b-1-3)
tuwara	튜와라	(1-7a-6-4) (1-11a-1-7)
u 「漢語塢」 (mei u 「郿塢」)	수 ⁵⁴	(1-13a-1-5)
uba 「ここ」	우바	(1-1a-2-6)
ubade 「ここに/で」	우바더	(1-20a-6-1)
ucarambi 「出会う」	---	---
ucarafi	우차라파	(1-15b-3-3)
ucei 「戸の」	우체	(1-6b-6-1)
udu 「幾つ；いくら～(だと て)」	우두	(1-15a-6-7)

a面において、「珠簾」の満洲語訳は tuhebuku である（原書ではハングル表記で「투허부°.AsyncTask」と記されている）。なお、ucei tuhebuku は漢文『三国志演義』における「繡簾」に対応する。

⁵¹ 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁵² 原書の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は、印刷が不鮮明である。

⁵³ 原書の当該箇所では印刷が不鮮明なため、「튜암비」が「두암비」のように見えるが、本来は「튜암비」と書かれていたものと考えられる。

⁵⁴ 「郿塢」に対応する満洲語文語は mei u であり、これに対応するハングル表記は「메 우」であると考えられる。しかし、『三譯総解』の当該箇所における満洲語文語のハングル表記は「메 수」(mei zu) となっている。この誤記は、『三譯総解』の編集者が満洲文字の語頭の u を zu と誤認したことによると考えられる。

ujimbi 「養う」	---	---
ujimbihe	우침비하	(1-15b-2-6)
uju 「頭；第一」	우쥬	(1-9b-2-5) (1-13b-3-4)
ulin 「財物」	우린	(1-11b-3-6)
umai 「全く(～でない)」	우매	(1-5a-2-1) (1-12b-4-5)
ume 「否定命令標識」	우며	(1-4a-4-2) (1-10a-5-6) (1-12a-4-2) (1-12a-5-5)
unde 「まだ～していない」	운더	(1-5a-6-3)
unenggi 「誠；事実；誠実な；本当の」	우녕기	(1-16a-4-1)
urgunjembi 「喜ぶ」	---	---
urgunjeho	울군져하	(1-8b-6-3)
urse 「衆人」	울서	(1-10a-4-4) (1-20a-1-4)
urun 「息子の嫁」	우룬	(1-3b-4-7)
uthai 「すぐに；即ち」	운해	(1-1a-5-3) (1-3b-2-1) (1-3b-5-1) (1-14b-6-5) (1-21a-2-3) (1-21a-4-3)
uttu 「このように」	운튜	(1-4a-2-3) (1-11b-4-6) (1-18a-6-4)
wajimbi 「終わる」	---	---
wajihah	와지하	(1-11b-4-8)
waka 「～ではない」	와카	(1-1a-3-2) (1-2a-2-3) (1-15b-1-7) (1-17b-2-8)
wakalabumbi 「咎めさせる；咎められる」	---	---
wakalabuha	와카라부하	(1-7b-6-1)
wakalambi 「咎める」	와카람비	(1-1b-4-1) (1-11a-5-3)
wakalahah	와카라하	(1-10b-6-4) (1-12b-2-4)
wakalahabi	와카라하비	(1-12a-3-2)
wakalara	와카라라	(1-4a-4-3)
wang 「漢語王」 (wang sytu 「王司徒」) (wang yun 「王允」)	왕	(1-15b-1-1) (1-1a-2-1) (1-1a-5-4) (1-1a-5-8) (1-1b-1-1) (1-1b-2-3) (1-2a-3-1) (1-2a-6-1) (1-4a-6-1)
we 「誰」	워	(1-2a-2-5) (1-16a-1-4) (1-19a-3-4)
wei 「漢語圍」 (wei ping 「圍屏」)	웨	(1-9b-5-6)
weile 「罪；事」	웨리	(1-2a-5-1) (1-4a-5-1) (1-11b-1-1)
weilei 「罪/事の」	웨레	(1-11a-5-1)
wen 「漢語温」 (wen heo 「温侯」)	원	(1-11a-6-2) (1-19b-6-2) (1-20a-5-3)
yabumbi 「行く、歩く；行う」	야봄비	(1-13a-4-2) (1-13b-5-7)
yabume	야부며	(1-7a-1-2) (1-12b-4-4)
yafan 「園」	야판	(1-14b-5-3) (1-15a-1-4) (1-20b-2-1) (1-22a-1-1)

yalumbi 「乗る、騎乗する」	---	---
yalufi	야루피	(1-13a-3-7) (1-13b-5-5) (1-14a-5-5)
yamulambi 「登庁する」	---	---
yamulame	야무라며	(1-14a-1-3)
yamun 「衙門、役所、官庁」	야문	(1-2b-1-1) (1-5a-1-5) (1-8a-4-4) (1-13a-2-3) (1-13a-5-1) (1-13b-2-4) (1-13b-4-2) (1-18a-1-1)
yargiyan 「本当の」	알간	(1-6a-5-6)
yasa 「目」	야사	(1-7a-2-2)
yasai 「目の」(yasai muke 「涙」)	야새	(1-6a-3-5) (1-9a-3-6) (1-9a-6-7) (1-19a-3-7)
yebe (yebe oho 「病気が少し よくなった」)	여벼	(1-12b-6-5)
yun 「漢語允」 (wang yun 「王允」)	윤	(1-1a-2-2) (1-1a-5-5) (1-1a-5-9) (1-1b-1-2) (1-1b-2-4) (1-2a-3-2) (1-2a-6-2) (1-4a-6-2)
žu 「漢語儒」 (li žu 「李儒」)	수	(1-10b-3-5) (1-10b-4-2) (1-11a-3-2) (1-11b-2-4)

参考文献

<日本語文献>

- 池上二良 (1951) 「満洲語の諺文文献に関する一報告」『東洋學報』33(2): 97-118.
- 池上二良 (1954) 「満洲語の諺文文献に関する一報告 (承前)」『東洋學報』36(4): 57-74.
- 池上二良 (1955) 「トゥングース語」市河三喜・服部四郎 (編) 『世界言語概説 (下巻)』441-488. 東京: 研究社.
- 池上二良 (1963) 「ふたたび満洲語の諺文文献について」『朝鮮学報』26: 94-100.
- 今西春秋 (1958) 「漢清文鑑解説」『朝鮮学報』12: 21-58.
- 烏拉熙春 (2009) 『明代の女真人: 「女真訳語」から「永寧寺記碑」へ』京都: 京都大学出版会.
- 王海波 (2025) 「アルチュカ語語彙集: 穆暉駿資料の満洲語文語索引」『北方言語研究』15: 237-276.
- 小倉進平 (1914a) 「朝鮮に於ける日漢滿蒙語辭書」『朝鮮及満洲』83: 40-46.
- 小倉進平 (1914b) 「朝鮮に於ける日・漢・滿・蒙語讀本」『東洋學報』4(2): 244-266.
- 菅野裕臣 (2005) 「朝鮮司訳院の清学書のハングル対音の性格について」『韓国語学年報』1: 1-8.
- 岸田文隆 (1989) 「清学書に現れた満洲語ハングル表記について: 特に満洲字 e に対する 2 通りのハングル表記をめぐって」『言語学研究』8: 17-38.
- 岸田文隆 (1997) 『「三譯總解」の満文にあらわれた特殊語形の来源』東京: 東京外國語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 久保智之・児倉徳和・庄声 (2011) 『シベ語の基礎』東京: 東京外國語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 田村實造・今西春秋・佐藤長 (1966-1968) 『五體清文鑑譯解』京都: 京都大學文學部内陸アジア研究所.
- 羽田亨 (1937) 『満和辭典』京都: 京都帝國大學満蒙古調查會.

- 早田輝洋 (2008) 「満洲語の音節構造：音節節約を中心にして」 寺村政男・久保智之・福盛貴弘 (編)『語学教育フォーラム (第 16 号) : 言語の研究—ユーラシア諸言語からの視座—』 21-51. 東京 : 大東文化大学語学教育研究所.
- 福田昆之 (2008) 『増訂満洲語文語辞典』 横浜 : FLL.

<韓国語文献>

- 高麗語言研究院(2006) 『朝鮮語古語詞典』 牡丹江: 黑龍江朝鮮民族出版社.
- 南廣祐(1997) 『教學 古語辭典』 서울: 교학사.
- 두산동아 사서편집국(1994) 『동아 프라임 韓日辭典』 서울: 두산동아.
- 성백인(1984) 「譯學書에 나타난 訓民正音 使用: 司譯院 清學書의 만주어 한글 표기에 대하여」 『한국문화』 5: 21-63.
- 邵磊(2011) 「『漢清文鑑』을 通해 본 滿文의 한글表記法」 『中韓文化關係國際學術會議論文集』 290-308.

<中国語文献>

- 安雙成 (主編) (1993) 『滿漢大辭典』 潘陽 : 遼寧民族出版社.
- 安雙成 (主編) (2018) 『滿漢大辭典 (修訂本)』 潘陽 : 遼寧民族出版社.
- 崔宰宇 (1997) 「『漢清文鑑』的編排體例和語音轉寫」 『中央民族大學學報 (社會科學版)』 1997(3): 82-89.
- 郭秀昌・何榮偉 (主編) (2020) 『滿語全書』 潘陽 : 遼寧民族出版社.
- 胡增益 (主編) (1994) 『新滿漢大詞典』 烏魯木齊 : 新疆人民出版社.
- 胡增益 (主編) (2020) 『新滿漢大詞典 (第 2 版)』 北京 : 商務印書館.
- 金東昭 (1990[1977]) 「《龍飛御天歌》女真詞彙研究」 金東昭 (著)・黃有福 (譯) 『女真語、滿語研究』 85-103. 北京 : 新世界出版社. 初出: 『國語教育研究』 9: 91-105.
- 李樹蘭・仲謙 (1986) 『錫伯語簡誌』 北京 : 民族出版社.
- 內蒙古大學蒙古學研究院蒙古語文研究所 (編) (1999) 『蒙漢詞典 (增訂本)』 呼和浩特 : 内蒙古大學出版社.
- 邵磊 (2016) 「清-朝鮮時期漢·滿·韓互譯中的文字對音 : 以『漢清文鑑』滿文的韓文表記法為例」 『編譯論叢』 9(2): 57-92.
- 邵磊・多麗梅 (2022) 「海外中國典籍的多語轉寫研究 : 以『清語老乞大』漢語-滿文的朝鮮文轉寫為例」 『東方語言學』 2022(2): 17-25.
- 邵磊・多麗梅 (2023) 「『三譯總解』滿文的朝鮮文轉寫研究」 『滿學研究』 2023: 195-204.
- 邵磊・金龍軍 (2022) 「清代滿朝對音文獻中的特殊轉寫 : 以滿文-w 系復元音的朝鮮文轉寫為中心」 『民族翻譯』 2022(4): 77-86.
- 邵磊・林茶英 (2022) 「論朝鮮清學書滿朝對音中的音節對稱與不對稱」 『滿語研究』 2022(2): 6 9-74.
- 邵磊・任國俊 (2023) 「清學書中的朝鮮文『圈點字』研究」 『民族翻譯』 2023(3): 78-88.
- 邵磊・王敵非 (2022) 「『清語老乞大』滿文的朝鮮文轉寫研究」 『滿族研究』 2022(2): 89-95.
- 王敵非 (2013) 「『清語老乞大』滿朝對音研究」 『黑龍江民族叢刊』 2013(6): 155-158.
- 王敵非 (2024) 『俄羅斯滿文稀缺文獻釋錄』 北京 : 商務印書館.

<英語・ドイツ語文献>

- Hauer, Erich. (2007) *Handwörterbuch der Mandschusprache, 2., durchgesehene und erweiterte Auflage herausgegeben von Oliver Corff*. Wiesbaden: Harrassowitz.

- Ikegami, Jiro. (1990) Significance of Korean materials in the study of Manchu. *Altai Hakpo*. 2: 71-77.
- Lie, Hiu. (1972) *Die Mandschu-Sprachkunde in Korea*. Bloomington: Indiana University.
- Norman, Jerry. (2013) *A Comprehensive Manchu-English Dictionary*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Asia Center.
- von der Gabelentz, Hans Colon. (1864) *Sse-schu, Schu-king, Schi-king in Mandschuischer Uebersetzung, mit einem Mandschu-Deutschen Wörterbuch (Zweites Heft. Wörterbuch)*. Leipzig: Deutsche Morgenländische Gesellschaft.
- Yang, Jaeyeong. (2025) *Diachronic Morphology of Consonantal Stems in Jurchen and Manchu*. Ph.D. dissertation, Seoul National University.
- Zikmundová, Veronika. (2013) *Spoken Sibe: Morphology of the Inflected Parts of Speech*. Chicago: University of Chicago Press.

<ロシア語文献>

- Аворин, В. А. (2000) *Грамматика Маньчжурского Письменного Языка*. СПб.: Наука.
- Захаров, И.И. (1875) *Полный Маньчжурско-Русский Словарь*. СПб.: Типография Императорской Академии Наукъ.

An Index to the Written Manchu Words Transcribed in Hangul
in the First Volume of *Sam-yōk Ch'ong-hae*

Haibo WANG
(Lingnan Normal University)

Keywords: *Sam-yōk Ch'ong-hae*, Hangul Transcription, Written Manchu

Sam-yōk Ch'ong-hae is one of the books compiled by the Bureau of Interpreters during the Joseon Dynasty in Korea. In this work, Written Manchu words were recorded in both the Manchu script and the Hangul transcription. Notably, the Hangul transcriptions do not always correspond directly to their Manchu script counterparts, suggesting that they may reflect phonetic nuances not fully represented in the Manchu script. This paper presents a Möllendorff-transcription-based index of Written Manchu words found in the first volume of *Sam-yōk Ch'ong-hae*. By aligning the Hangul transcriptions with their equivalents in the Manchu script (represented in Möllendorff transcription), the index serves as a practical reference for exploring script correspondences and phonological details of Written Manchu.

(おう・かいは boljon@163.com)